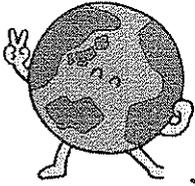


ずしし かんきょうかいぎ ニュース

第14号 2006年2月

事務局 逗子市環境部環境管理課
逗子市逗子5-2-16
Tel 046-873-1111 内線 254

発行 ずしし環境会議 (エコリーダーズ会議)



かんきょう連続講演会を開催!



** 私たちが身近な生活からできる環境保全について考えてみましょう **

逗子市では、緑地保全やごみ問題、二酸化炭素の削減などの身近な環境問題に、市民・事業者・市それぞれが主体となり取り組んでいます。

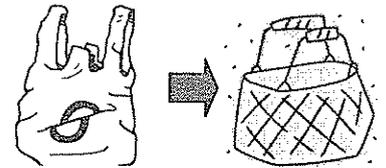
皆さんも連続講演会をきっかけに、今までの生活を振り返り環境保全に関心を持ち「地球にやさしいライフスタイル」の第一歩を踏み出しませんか。

多数の皆さんのご参加をお待ちしております。

第1回

「容フラこれでいいの? No.2 《パネルディスカッション》」

日時: 3月5日(日) 14:00~16:00
場所: 文化プラザさざなみホール
パネリスト: 市内スーパーマーケット環境担当者

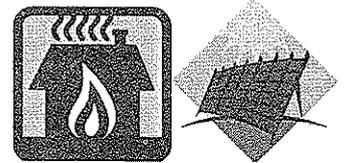


第2回

「省エネ・造エネの必要性和その背景」

日時: 3月12日(日) 14:00~16:00
場所: 市役所5階会議室
講師: 明治大学教授理工学部工学博士
藤井 石根 氏

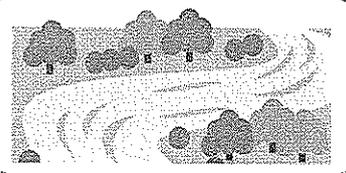
※講演後、省エネにチャレンジしている市民の発表会を行います



第3回

「田越川...自然環境との関わり方」

日時: 3月25日(土) 14:00~16:00
場所: 市役所5階会議室
講師: 横須賀市自然・人文館館長
林 公義 氏



「かんきょう連続講演会」へ参加される方は、当日講演会会場へお越しください。(先着100名) かんきょう連続講演会は連続参加の必要はありません。また、講演会に関して、車でなければ来場できない方やお身体の不自由な方、手話通訳を希望する方は、各回開催日の10日前までに環境管理課へご相談ください。

問合せ: 環境部 環境管理課

T E L : 046-873-1111 (内線 254)

F A X : 046-873-4520

E-mail : kankyo@city.zushi.kanagawa.jp

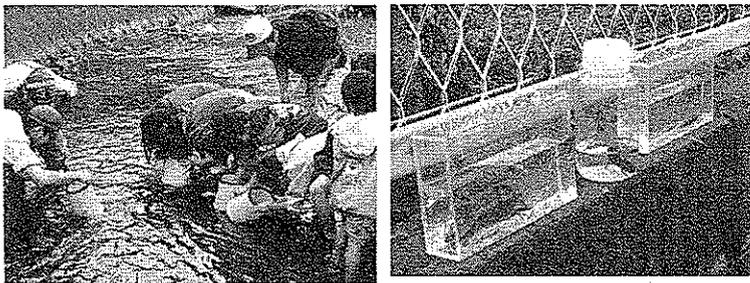
まちなみと緑の創造部会

当部会では、「逗子のまちなみと緑を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

私たち、ずしし環境会議「まちなみと緑の創造部会」では、2003年度から『田越川ウォッチング』と称して田越川とその支流である池子川、久木川の定期的な観察を続けてきました。

その中で、この川が、多様な生き物がくらす、とても身近で価値のある自然であるということを実感しています。この川をより良い状態で次世代へ伝えるために、この川の現状をしっかりと把握したいと思います。この川にどんな生き物が暮らしているのか？まずは魚類を中心とした調査からはじめてます。

05.10.22 第1回 田越川さかな調査の様子



環境会議メンバーと一般の参加者、総勢25名で行いました。多くの子どもたちが参加してくれたことは、とてもうれしい事です。そしてなにより、たくさんの生き物がくらしている田越川の魅力に気づいて頂いたことが良かったと思っています。捕獲した魚は、必要な分だけ、神奈川県環境科学センターに持ち帰って頂き、横須賀自然史博物館に納めます。捕獲した魚の中には、過去に記録がない種類も含まれていました。田越川にどんな生き物がいるのか？全てを知る人は誰もいません。今後も様々な発見が期待できます。

当日の様子の詳細や、捕獲した魚と生物のリストはホームページに掲載しています。ぜひ一度ご覧下さい。

<http://www.city.zushi.kanagawa.jp/syokan/kankyo/tagoegawa>

田越川のサケ

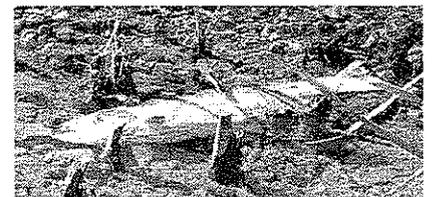
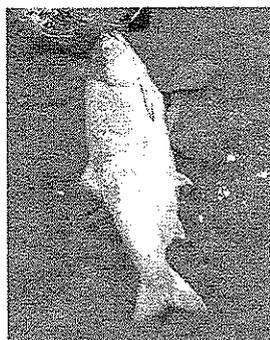
昨年は田越川のサケが注目を集めました。新聞やテレビでの報道もあり、サケの存在をはじめて知った方も多いのではないのでしょうか。私たちは、「田越川ウォッチング」をはじめた2003年から、毎年サケの存在を確認していましたが、その他にも、田越川のサケに関する記録がありましたのでご紹介します。

1986年11月に雌の死骸が確認されて新聞報道が行われたようです。また、1995年11月に雌の個体が確認され、これは、横須賀自然史博物館に登録、保管手続が行われました。三浦半島の河川に遡上したものの標本個体はこれが初めてです(神奈川県自然誌資料, 1997)。今年度については(オス、メスと思われる)2個体を確認できました。複数確認したのはこれがはじめてかもしれません。

ただ、田越川にサケが遡上することは喜ばしいことでしょうか？本来、田越川にサケは生息していません。それが近年遡上する原因としては、本来の生息地でない多摩川などで人工孵化放流が行われたためと考えられています。「サケ遡上」はトピックとしては面白いのですが、喜ぶべきことかどうか、皆さんはどう考えますか？

田越川の現状として今後もモニタリングを続けていきたいと思っています。

05/11/20確認の♂(?) →
↓06/1/6に確認の♀



田越川 サケ遡上の記録

年度	場所	数
1985年度	不明	1
1995年度	下田橋付近	1
2003年度	向原橋付近	1
2004年度	東逗子バス停付近	1
2005年度	向原橋付近	2

田越川さかな調査

ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会

協力：神奈川県環境科学センター、横須賀自然史博物館

現在2006年度の活動を計画中です。興味のある方は逗子市環境管理課(046-873-1111)にご連絡下さい。決まり次第日程表を郵送させていただきます。

<活動実績>

- 05年10月 田越川さかな調査(丸山病院裏)
- 05年11月 田越川ウォッチング(中流域)
- 05年12月 田越川ウォッチング(上流域)
- 06年1月 田越川ウォッチング(池子川)

<活動予定>

- 06年3月25日 環境連続講演会
『田越川…自然環境との関わり方』 林公義氏
- 06年6月頃 観察会(ヨシノボリの産卵)
- 06年9月頃 観察会(田越川のアユ)
- 06年12月頃 魚の標本作製

ずしし環境会議では、一緒に活動して頂く仲間を募集中です!!どなたでも参加頂けます!!逗子市環境管理課までご連絡下さい。

ごみ問題部会

人の命を奪う豪雪！ 世界的なこの異常気象も温暖化で大量の水蒸気が蒸発した結果でしょうか？

大量生産
大量消費
大量廃棄の使い捨て社会から



ごみになるものを
作らない
使わない社会への方向転換

しなくては

子どもたちの未来はどうか想像もつきません。

そんな思いで、今年も身近にできることから実行していこうと思います。市民の皆さんも同じ思いなのは幾つかの行動に現れています。その例を1, 2で紹介します。

1. ごみ箱ゼロの市民まつり大成功 ご協力ありがとうございました



ゼッケンと汁物入れ



これがスチール缶？

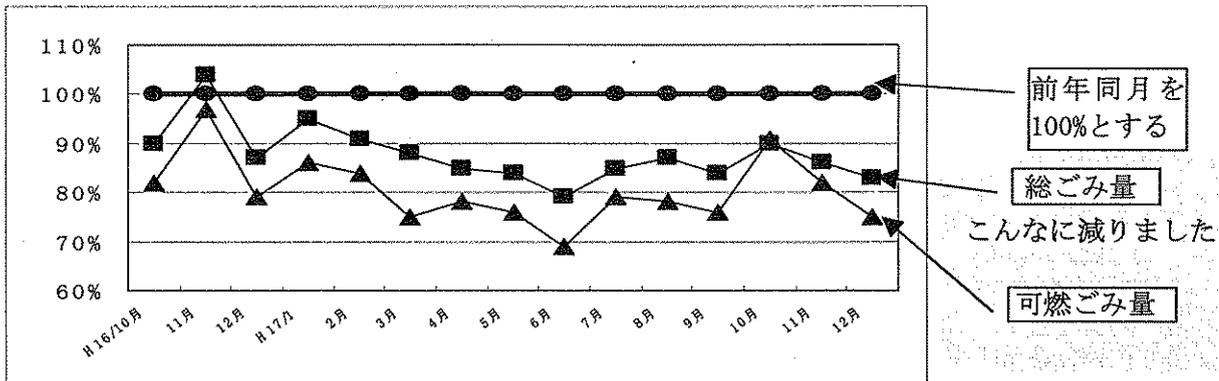


持ち帰り袋を持った親子



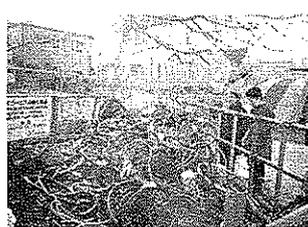
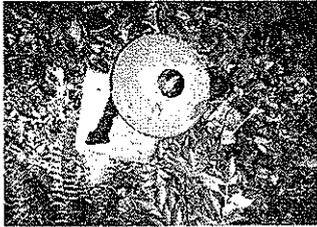
いままでゴミ箱があった場所はこんなにきれい

2. 逗子市のごみ量は？ (前年度同月比)



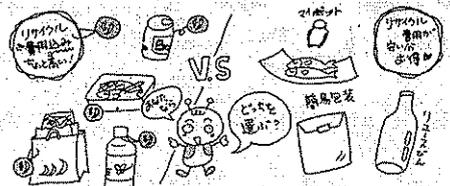
3. 一向に無くならない不法投棄ごみ！

—毎月末の金曜日には一掃しているようですが— (2005/12/22 撮影)



4. 一市内スーパーの環境担当者を招いてパネルディスカッション—

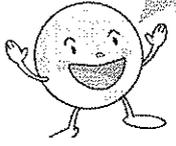
「容器プラこれていいの No2」 ぜひご参加を！ 3月5日(日) 2時から
さあ みんなで「ごみゼロ社会」の扉を開きましょう！



5. ごみ処理広域化はどうなっているの？

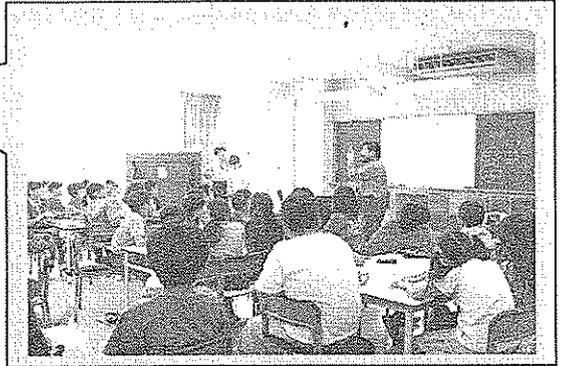
ごみ処理を三浦半島の4市1町で、広域で処理しようという計画が10年来ありましたが、昨年末それが鎌倉と逗子でということになり、これは逗子の焼却施設を前提にしているようです。人口が3倍ある鎌倉のごみを焼却したら環境負荷は多くなります。逗子なりにごみを減量し、環境にやさしい施設の計画を私たちごみ部会のメンバーのように活動している市民共に作って欲しいものです。

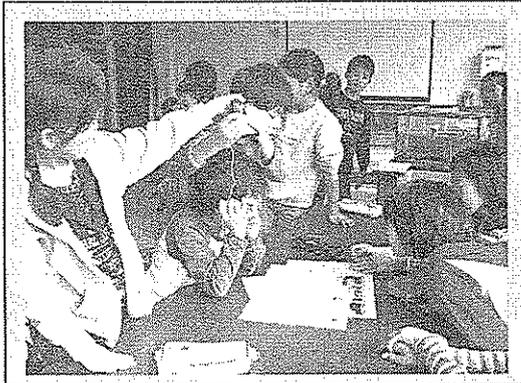
“新エネルギー体験授業見聞記”



逗子市市立全小・中学校 8 校への太陽光発電システムの導入にあわせて、市では各校に対し“新エネルギー体験授業”を行いました。私達二酸化炭素削減部会は、そのお手伝い役としてこの授業に参加しました。

ビデオ映像を見ながら地球温暖化が人と自然に与える影響について（例えば海面上昇・生態系への影響など）説明があり、生徒さん達は、学校の授業で聞いたことがあった内容についても、再認識をしたようです。

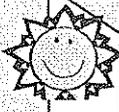


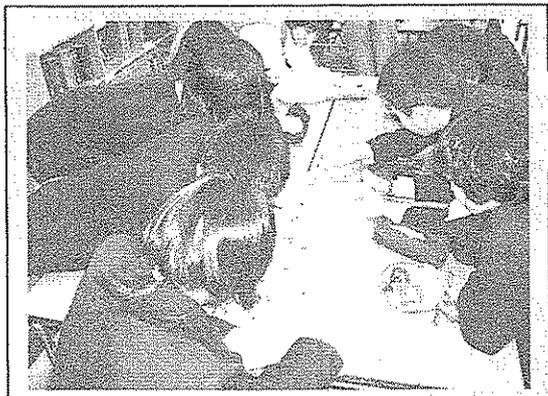


太陽光パネルを使ってオルゴールの音を聞いたり、手回し発電機による白熱電球、蛍光灯、発光ダイオードなどの明るさの違い、電圧の比較をしました。信号機の青・黄・赤色も発光ダイオードによるものと聞いて驚きの声をあげていたのが印象的でした。



電気の通っていない砂漠などでも太陽光を集束させ、その熱で料理を作ったり、お湯を沸かすことができる様子を興味深く見ていました。なかには器具に触れていた子どももいてほほえましく思いました。





2種類のエネルギーの消費の仕方の家庭のイラストを見て、グループ討議により省エネの仕方、家族の暮らし方の違いを調べ書き出していました。グループ内の意見交換はなかなか活発で「ここも違うあそこも違う」など声がとびかっていた。屋根の上の緑化の有無にも気が付き、観察の鋭さには感心しました。



授業が終了して感じたこと
子ども達が「何かを感じとり、家庭・学校で行動してほしい」と思った。